

環境保全を国策とした国，コスタリカを旅して

半澤 紗由里
(横浜市立野毛山動物園)

2025 年 1 月 28 日から 2 月 6 日にかけて，中央アメリカのコスタリカ共和国を訪れ，野生動物を観察する機会を得た。コスタリカは，四国ほどの面積に地球上の全生物の 5%が生息する生物多様性を誇ると共に，それを維持するための施策も充実している。本発表では，現地を訪れることで体感したそれらの取り組みを報告する。

コスタリカは，狭い国土ながら大きく分けて 6 つもの気候帯が存在し，それが多様な生物相を生み出している。本発表における行程では，「山地」「カリブ海側の低地」「高地」「南太平洋側の低地」の 4 つの気候帯を移動し，それぞれで異なった種の生物が観察できた。

生物多様性の維持は，官民が協働で取り組んでいる。私営の保護区では，入園料収入やエコツアーの実施でその自然を維持することに成功している。また，野生傷病鳥獣を保護している非営利組織も存在する。

政府は国内で 30 か所の国立公園を運営している。国立公園には，舗装道路などの整備が進み，観光客の多いところや，手つかずの自然が残り，ガイド同伴でなければ入ることのできないところなど，様々なものがある。すべての国立公園が環境保全に重要であり，観光収入の多い国立公園が，来訪者の少ない国立公園の維持費も賄うという考えが根付いている。

コスタリカ政府の自然保護政策は非常に成功しており，開発により失われた森林の 6 割が回復している。